

「三島大里学園の弓矢踊り・面踊り伝承活動の取組」

1 学校名

三島村立三島大里学園

2 学年・人数

2年生から9年生（計22人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

6月21日（火）	3校時	本校集会室
6月29日（水）	3校時	本校集会室
9月22日（木）	3校時	本校校庭
9月26日（月）	2・3校時	大里地区健康広場・体育館
9月27日（火）	2・3校時	大里地区健康広場・体育館
9月30日（金）	3・4校時	大里地区健康広場・体育館
10月4日（火）	5校時	本校校庭
10月8日（土）	3校時	大里地区健康広場・体育館

(2) 発表の日時・場所

10月9日（日）大里地区・三島大里学園大運動会（大里地区健康広場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

弓矢踊り（ゆみやおどり）、面踊り（めんおどり）

(2) 由来

① 弓矢踊り

1584年、島原北部の沖田畷において、龍造寺隆信と、侵攻を受けた有馬晴信、有馬の援軍に向かった島津家久との間で勃発した戦をモチーフとしている。この時、家久の子豊久は15歳で参戦し、見事な若武者ぶりを披露した。その勇姿を表したものである。

② 面踊り

五穀豊穰と子孫繁栄、生産を祈る踊りで、手にはメシゲ（しゃもじ）と播り粉木を、腰にはひょうたんを持ち、生産を意味している。

(3) 構成等

① 弓矢踊り

烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の二列にわかれ、鉦と太鼓の音で入場、各列先頭の二人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり、地唄手の唄に合わせ、鉦や太鼓で調子を取りながら踊る。

② 面踊り

ボロをまとい、ビロウの葉、シュロの皮、ガジュマル根等で身を飾り、腰には瓢箪を下げ、顔には鬼、おかめ、ひょっとこ、かっぱ等の面をかぶり、右手にメシゲ、左手に播り粉木を持ったメンが二組に分かれ、奇抜なかけ声を出しながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

地唄手（ジュウテイ）の方々2人と地元出身者1人、地域おこし協力隊の1人に「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等の指導を依頼している。衣装合わせや踊り揃えなど、子ども会や地区の協力もいただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 前期・後期課程の弓矢踊りと面踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 前期・後期課程合同の練習時、「ふるさと先生」に指導をお願いした。
- (3) 弓矢踊りで使う弓・矢を修理した（弓・矢の装飾を新しく行った）。
- (4) 新型コロナウイルス対策のため運動会の種目見直しが行われる中であるが、今年度は大将役が実際の衣装をまとい披露した。新型コロナ対策を行う中であっても、できることを少しずつ実行していく流れができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【弓矢踊り：ふるさと先生による指導】



【弓矢踊り：運動会本番の様子】

【地唄さんとともに】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【9年生生徒】

大将の口上を覚えたり、タイミングを合わせるころなど最初は動きが難しく、戸惑ったけれども、ふるさと先生に教えてもらって踊れるようになった。大里の伝統を知ることができたので後輩にもしっかりと引き継いでいきたい。

【教員】

地元の子どもたちはもちろん、しおかぜ留学生の子どもたちも意欲的に取り組むことができた。踊りの由来を知ったうえで取り組むことで、意味が出てくると思う。高齢化が進む中で、子どもたちが担う役割は大きいと感じている。

【地唄手】

子どもたちが毎年運動会で披露してくれるのを地域の人たちも楽しみにしている。この踊りが途絶えないよう、私たちも学校と連携しながら継承に力を入れていきたい。